

平成 27 年度 第 1 回長野市放課後子ども総合プラン推進委員会 会議録（要約）

- 日 時 : 平成 28 年 2 月 17 日 (水) 午後 1 時半から 3 時半まで
- 場 所 : 第一庁舎 7 階 第二委員会室
- 出席者 : 委員 9 名  
事務局 (こども未来部 : 9 名、教育委員会 : 3 名)

○ 次 第

- 1 開 会
- 2 委員委嘱
- 3 あいさつ
- 4 自己紹介
- 5 委員長選任
- 6 議 事

報告事項

- (1) 放課後子ども総合プラン推進委員会について

協議事項

- (1) 放課後子ども総合プランについて
- (2) 放課後子ども総合プランのあり方について
- (3) その他

- 7 その他
- 8 閉 会

《資料》

- 資料 1 放課後子ども総合プラン推進委員会について
- 資料 2 放課後子ども総合プランについて
- 資料 3 放課後子ども総合プランのあり方について (検討案)

○ 議 事

事務局から説明

- (1) 放課後子ども総合プラン推進委員会について(資料 1)

(質疑・意見)

委 員 推進委員会とは、それぞれの議案について我々が審議し、市の執行機関に提案をしていくという性格というもので良いか。

事 務 局 本日は新たなメンバーでのスタートとなり、様々な立場から審議いただきたい。現在の放課後子ども総合プランが何処へ向かっているのかということ資料 2 で説明させていただき、その中でご意見賜りたい内容を資料 3 でお示ししている。その都度ご意見をいただきたい。

事務局から説明（口頭・DVD 視聴）

「市政テレビ番組（SBC 信越放送制作）」の一部を視聴（内容：放課後子ども総合プランの紹介、市内児童センターでの子どもの過ごし方や保護者・アドバイザーへのインタビューの様子など）

## (2) 放課後子ども総合プランについて(資料 2)

### (質疑・意見)

**委 員** DVD の内容がとても良かった。様々な所で流していただければ良い。

2 点質問がある。資料 5 ページについて、希望児童見込み数の推移が平成 31 年に急にピークとなっている理由は。

それから、資料 7 ページだが、寺尾小学校区は学校内施設のみではなく、学校の近隣の公民館も使用している。また、豊栄小学校区は学校外施設と言えるのではないかと。保科小学校区も同様。

**事務局** 最初の質問だが、ご指摘のとおり平成 31 年度から急に児童が増加している。希望児童の受入れ準備は計画的に進めているところだが、学校の教室に多少スペースがあったとしても、全ての希望児童の受入体制が整った所で校区ごとにスタートとなる。平成 31 年度に多くの校区が実施となる見込みのため、急に増えている。

寺尾小だが、ご指摘のとおり公民館は建物的には校外施設となるが、運営上は「子どもプラザの分室」として位置付けている。そのため、運営の位置づけとして校内施設とした。他の児童館・児童センターとは違い、児童厚生施設で開設しているわけではないため。

また、豊栄小、保科小についても校舎の中に児童館を建てる建築スタイルになっているが、管理は学校と分けていることから、学校外施設としているもの。長野市の財産区分上もそうしている。

**委 員** 新しく開設する吉田子どもプラザについても、学校内を活用して開設するのか。

**事務局** その予定。

**委 員** 資料 7 ページについて、着々と受入が進んでいるのがよくわかる。平成 28 年度においては 5 年生までの校区として緑ヶ丘、下氷鉦が残るが、平成 29 年度にはこの 2 校区を含めたすべての校区において 6 年生までの受入れが行われるということで良いか。

**事務局** そのとおり。6 年生までの留守家庭児童についてはそのようになる。下氷鉦小学校区については、現在小学校の改築を行っており、その建物の完成が平成 29 年度となるため、そこで受入れを行う予定。

### (3) 放課後子ども総合プランのあり方について(検討案)(資料3)

#### (質疑・意見)

委員 資料6 ページ「体力・創造力向上プログラムの実施状況」だが、こうやって表を見ると施設によって回数や参加児童数に差があるように見える。この結果を見て、市から何か指導というかアドバイス等を行っているのか。

事務局 学校区毎に実施回数は異なっており、必ずしも登録児童数が多い所で、プログラム参加児童数が多いというわけでもない。特に傾向はあるわけでは無い。市からの指導については、アドバイザーには登録時、コーディネーターにも定期的に研修を行っている。

アドバイザーによる体験活動の差については、研修だけが原因ではないとは感じている。アドバイザーには個人差がある中で、子どもにとって楽しければ、回数を重ねてさらに活動の充実につながっている。コーディネーターの企画能力等にも個人差があるが、不慣れなアドバイザーがどうしてもいかわからない事態を防ぐためにも、アドバイザーにその場をすべて任せてしまわず、支援員も一緒になって体験活動の提供者となっていていただくようお願いをしている。支援員に補助してもらってアドバイザーが活動しやすくなることで、この活動の質が高まっていくと考えている。活動については、基本的に各校区に任せており、活動回数についての指導は特にしていない。

委員 私がコーディネーターを務めている城山小学校区では、児童センターと子どもプラザでそれぞれ週1回、アドバイザーを呼んでいる。子どもプラザは学校なので遊び場が沢山ある。児童センターでは施設内に限られる。こうした特徴も踏まえてアドバイザーを呼んでいる。また、学年によっても出来ること、出来ないこと、興味関心の有無が異なるため全ての子どもが楽しめる活動内容を考えるのはなかなか難しい。

城山小学校区ではとにかく色々なアドバイザーを呼んで一人でも満足できる子どもがいれば良いと考えている。活動回数では計れない部分がある。

委員 地域のボランティアの活用ということで、コミュニティスクールのこともある。学校管理面で、学校開放が進むことについて課題はあるか。

委員 校長会代表とすれば、他の校区のことまでは把握していないが、自分の学校では今年からプラザが校内に出来た。今年から初めての利用となるので、人数は多くない。学校施設と基本的に切り離しをしていただいているのはありがたい。ただ運営中は、時にはやはり気になる点もある。

市内でインフルエンザがまん延している。学級閉鎖や不審者等への対応について普段から連携しておくこと、「これは難しい」というところを普段から風通しよく進めていくことが大事と思う。地域との関わりも同様。内容をもっと充実させたい。

それから1点。子どもを預かる中で安全を確保する際、支援員の配置について、ただ人数だけで配置するのではなく、子どもに合わせた配置にして欲しい。教室から飛び出

してしまう子もいる。状況に応じて弾力的に検討して欲しい。

**委員** 資料7ページについて。私は児童センターに関わりがあり、子どもの生の姿、親からの情報、支援員の日頃の悩みといった色々な視点の情報が入ってくる。ただ、子どもの実状は、プラザを「学校生活でのほけ口」としている子が多い。子どもの気持ちが荒んでいる。

こういう時に、支援員の確保が大事と思う。ただ、人数を合わせればいいというものでもなく、質の向上ができる良い手立てが無いのか。

名古屋市のトワイライトスクールでは、教育委員会のバックアップが手厚い。校内に空き教室として、学校とは別に一箇所に固まっている。施設長・館長の他に教員OBが中心となり配置されている。こういう専門的な知識を持つ支援員がいるからか、そこまで荒れは見られないようだ。また、4～6年になると、学校でクラブ活動として面倒を見てくれているようだ。

教室が点々と離れていると、支援員も落ち着かない。施設全体の質の向上が必要だと思う。

**委員** プランがスタートした頃から、教室配置の問題はあった。現場に行くといつも思うが、放課後の場所は大変な状態になってきている。その中で、専門ではない方が面倒をみなければならぬ。さらに、特に支援を要する児童が増えている。そういった子どもたちのためにも、支援員を増員しているが、増員というよりやはり質の問題と思う。

そのため、専門家による巡回指導が核になるのだと考えている。コーディネーターと同様に、一校区単位、もしくは中学校区単位で配置か。資料5ページに記載があるとおおり、教員経験者が支援員を指導するような案は具体的にあるのか。

**事務局** 資料5ページのとおり、量の拡大だけでなく質の向上を目指していきたい。具体的に出来るよう研究を進めてまいりたい。

特に支援を要する児童については、配置基準とは別に職員加配をしているが、やはりそれだけでは不十分な点がある。児童に対してどういった対応をしたらよいか、専門知識を持った巡回支援員を配置し、実際に対応する支援員への支援を行っている。

また、特に支援を要する児童以外で、気になる児童への対応については、やはり教職経験者等のご意見を伺いながら、これから研究を進めてまいりたい。

**委員** 地域の人材の活用の話だが、塩崎小学校区では、地域の人材を活用しようと決めて、アドバイザーとして教職経験者を筆頭にかなりの数のアドバイザーに登録いただいたと記憶している。やはり、活動回数の実績が良い。こういったことがポイントになる気がする。

**委員** 活動の中身について質の向上が求められている。施設の安全面やしっかりとした指導

が整わない中での問題については、市だけでなく運営委員会をはじめとした地域組織が中心となり、どんな課題があるのか本気になって考える必要があると考える。

市としてここで挙がっている課題を次の年度につなげ、改善につながることを期待している。

#### (4) その他

報告事項なし

以上